

日野市立教育センター所報

教育センターだより

第2号 平成16年10月13日発行



編集・発行 日野市立教育センター
〒191-0042 日野市程久保 550
TEL 042-592-0505
FAX 042-592-1148



教育図書資料室のご案内

教育図書資料室には、学校教育要覧、市内幼・小・中学校要覧、平成元年度以降学習指導要領、昭和61年度以降小・中学校教科書、幼児教育研究集録、各校研究紀要、各校周年記念誌、学校だより、ひのっ子教育研究集録、等々を備えております。そして、学級経営や教材研究に役に立つ図書や視聴覚教材も揃えて、教職員の皆様、地域の皆様をお待ちしております。



学校教育の改革と新しい教育センター

日野市教育委員会
教育長 加島 俊雄

日野市の学校教育の改革は、学校選択制度の下に、「特色ある学校づくり」と「開かれた学校づくり」を2本の柱としています。私たちの現在の課題は、この枠組みの中で、教育内容の充実に向けて一步一步着実に改善を積み重ね、地域から信頼される学校として、その力量を確実なものにしていくことです。

第一の柱である「特色ある学校づくり」の重点は、「基礎学力」の定着です。各学校で、授業改善、読書活動、補習授業など創意工夫を生かしたそれぞれの取り組みが行われています。幸い、日野市においては、校内の実践的研究が盛んです。学力向上に向けた実践的研究の積み重ね・結晶はその学校の特色にもなっていくでしょう。

第二の柱、「開かれた学校づくり」の昨年からの重点は、地域と学校が協力して子供たちの「安全」を確保することです。日野市においても不審者情報は絶えません。子供たちの通学の安全のために、学校と地域が協力して進める安全パトロールは、子供たちを軸に地域が連携協力する力を生み出しています。これを契機に、開かれた学校づくりが一段と進むことになったと思います。

基礎学力と安全はこれからも重点課題として、継続的な取り組みが必要ですが、もちろん日野市においても他の教育課題が山積しています。8月に、日野市の教育課題について検討を重ねてきた教育委員会の6つのプロジェクトチームからそれぞれ報告書を受け取りました。基礎学力・不登校・学校週5日制・幼児教育・特別支援教育・部活動をテーマにした提言です。ここでは内容について触れませんが、いずれも日野市の現実に照らして、今後、取り組むべき方向を具体的に示したものです。

日野市の学校改革の中、国政においては、三位一体改革が大きな焦点になっています。今、そこで、一番の問題になっているのは、義務教育費国庫負担金の廃止問題です。文科省は、この国庫負担金は義務教育に対する国の責任を果たすものだから、制度の根幹は維持しなければならないとし、その上で義務教育制度を弾力化し、地方がそれぞれ多様な教育を主体的に実施できるようにする、との方針を打ち出しました。他方、全国知事会など地方6団体は、他の補助金とあわせてこの国庫負担金も廃止して、地方に税源委譲をと首相に申し入れました。この問題がどう決着するか予断を許しませんが、ここまで議論が進んだ結果として、これまで全国一律、全国が足並みを揃えた義務教育の世界も、地方分権の観点から制度改革が進んでいくと思われます。国政の動きについては、その具体的内容を把握する必要がありますが、日野市の学校教育にも大きな影響を与え、日野市の教育の主体性や方向性も改めて問われてくるでしょう。

教育センターは、教育改革・地方分権の動きの中で、本年4月、従来からの研修・相談機能に新たに調査研究機能を加えて発足しました。日野市の教育課題や新たな教育施策に対応してシンクタンク機能を果たすことがその役割です。日野市の学校教育は、これまでの学校改革の中身をさらに充実させていくことに加えて、新たな地方分権の動きに対応して地域からの教育を創造していく必要があります。この意味で、教育センターの生涯学習も含めた諸機能に対する市民の期待には大きいものがあると思います。教育センターが、地域に根ざした活動を積極的に展開し、その存在が日野市教育の新たな特徴として語られる日は、間近にあると思っています。

調査研究事業の活動の状況

教育課程及び基礎・基本の研究

教育課程(カリキュラム)研究委員会

本センターは独自の事業として、教育課程（カリキュラム）の改善、学力（基礎・基本）の定着を図るため、教育課程（カリキュラム）研究委員会を設けました。これは子どもたちの「個性」や「創造力」を伸ばすことと「基礎・基本」となる力を確実に定着させるために、学校における学習指導や評価を充実させ、その改善を図ることを目指しています。

具体的には

- (1) 教科の基礎・基本を、各学年・領域ごとに明らかにし、学習指導内容（教材）の構成を図る。
- (2) 基礎・基本を定着させるための学習指導法を明らかにする。

などの研究をします。今年度は、小学校国語科、同じく算数科と中学校数学科を研究対象としました。

当初、委員会全体会を開きました。その中で、委員を委嘱し、委員会が設置された趣旨を理解し、「基礎・基本の学力」の考察、研究の方向などについて検討してきました。夏季休業中から2学期初めは、国語・算数など各分会に分かれて、学校への具体的提言を作り上げる作業を進めてきました。

10月7日にはこれまでのまとめとして、中間報告をします。研究のまとめとその裏付けをするために、授業を実施します。そして、1年間の成果を2月28日に発表する予定です。

各部会の活動は次の通りです。

・小学校国語部会

今年度は、国語科で求める基礎・基本となる力を、「書くこと」とし、その指導法について改善を図ることとしました。小学校の国語科の指導内容から教科書に照らし合わせ、各学年でどの教材でどのような学習活動をし、どのように指導するかについて作業を進めています。そして、学年と項目別に「書くこと」の指導項目の配列の素案を表にまとめています。さらに、基礎・基本の力を高めるためにどのような授業を展開するかをまとめ、授業案を作成しはじめました。全学年の実施を目指して実証授業を実施し、その結果を研究集録にまとめます。

・小学校算数部会

算数科では学力を高める場面に求められることは「考える力の充実」としました。そこで、全学年を見通してその学年の「考える」ことを指導する場面を選び、どのような授業改善を図るかを考えました。

具体的には授業案としてまとめることとし、実証のため授業を計画しています。9月に5年「少数・わり算」の実証授業をしました。10月には3年生「新しい計算を考えよう」の単元

でわり算の導入の授業をします。初めてのわり算の学習は、子どもにとっても新鮮ですが、指導には工夫が必要です。この授業は少人数指導授業です。

・中学校数学部会

各中学校の数学担当教員から、指導上の問題点を提出してもらい、その解決策を考察してまとめます。

これからは、基礎・基本の力を考察し、また、日野の子どもたちの実態を知るため、学校における実態の収集や都や市の教育委員会が実施した学力調査の結果を考察しまとめます。

ひのっ子エコアクション

環境教育推進委員会

「ひのっ子エコアクション」とは、環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の「PDCA サイクル」の考え方を取り入れたシステムで、市内の各学校における環境保全・資源の有効活用や環境への負荷軽減等、環境にやさしい学校づくりのための活動指針ともなるものです。ちなみに、ネーミングは当委員会が行ったものです。（「PDCA サイクル」：P—プラン；計画、D—ドゥ；実施、C—チェック；点検・記録、A—アクション；見直しの略号です。）

●平塚市行政視察(学校版 ISO 取り組み先進市)より

8月6日(火)に、委員8名が平塚市環境政策課と市立向陽中学校を視察しました。

平塚市全公立幼稚園・小中学校(48園・校)による「学校版 ISO」取得することとし、平成13年度に取り組み開始、2年後には全48園・校が取得したそうです(市長・教育長発行の3年間有効の認定証有り：1年ごとに外部団体の審査を受ける)。儉約・節約を旨としあまり気負わずにやっている等、今後役に立つ情報・資料を得ることができました。

●滝合小学校の実践から

日野市環境基本計画の目標に基づき、児童を日野市民として育成します。児童が「環境」をどのようにとらえているのかの実態調査を行い、以下の観点で計画し、実践しています。

- (1) 指導計画をふまえた教科・道徳学習の発展として
- (2) 総合的な学習の時間への位置づけ
- (3) 特別活動の内容として
- (4) 児童の表現活動をととして、保護者・地域の環境意識の高揚、等々。



浅川清掃：1年生

●東光寺小学校の実践から

- (1) 4月より、「ISO14001」に準じた方法で教職員一人一人が省エネ・省資源チェックリストによって、月ごとに自己評価を行っています。
- (2) プログラム管理票によって、紙・水道・電気・ガス等の使用料を点検、達成状況の把握と改善策の立案を行っています。
- (3) 8月26日(木)に、日野市環境保全課と教育庶務課の監査を受けました。
- (4) 夏季休業中に校内の照明スイッチや流し場に、節電・節水の表示をしました。
- (5) 8月30日(月)「ひのっ子エコアクション実践校」の看板を屋上に取り付けました。
- (6) ゴミ減量・リサイクルを一層進めるため、職員室内のゴミ箱を撤去しました。



屋上に看板取り付け

●今後の方向と具体的な作業

- ◎「ISO14001」(環境マネジメントシステム規格)に基づく、「PDCA サイクル」の考え方を取り入れ、実施要綱等を作成する。認証制度・審査制度を取り入れる。
- ◎「ひのっ子エコアクション」実施要綱：プログラム：運用の手引き、児童・生徒用の各種チェック票・カード等の開発をする。

ひのっ子教育21研究員会

夏季休業中に行った研究集会

ひのっ子教育21研究員会は、これまで進めてきた研究をさらに深めるために、「大成荘」で1泊2日の研究集会を行いました。

- 1日 時** 平成16年 8月3日(火)午前8時15分 より 4日(水)午後5時
- 2場 所** 日野市立八ヶ岳高原 「大成荘」
- 3参加者** **<校長・園長>**
(36名) 会長：垣内 成剛(三沢台小) 副会長：前川 恵子(二幼)
副会長：秋山 譲児(二中) 顧問校長：京極 澄子(二小)
<指導主事> 伊藤 浩介 五十嵐 俊子 青木 睦
<研究員> ◎印は代表者
- ・ **幼稚園部会** (4名)
下川 和子(一幼)、◎強矢 るり子(二幼)、高橋 吉美(三幼)
永島 恭子(五幼)
 - ・ **小学校国語部会** (10名)
古里 夕紀奈(一小)、清家 未寿貴(二小)、菊池 英子(四小)
野上 貴子(五小)、水津 歩美(六小)、森田 真好(八小)
西村 紀子(旭が丘小)、◎西村 太吾(滝合小)
阿部 麻衣子(東光寺小)、相川 猛(三沢台小)
 - ・ **小学校算数部会** (6名)
立川 琴子(潤徳小)、小山 春苗(平山小)、横田 富信(百草台小)
山口 佳子(七小)、◎木部 美行(南平小)、平本 蘭子(仲田小)
 - ・ **中学校部会** (7名)
柴田 雄一(二中)、西尾 未和(七生中)、須永 優子(三中)
但野 嘉美(四中)、◎斎藤 基(三沢中)、森田 剛(大坂上中)
児玉 雅弘(平山中)
- <庶務担当教頭>**
中村 康成(東光寺小)、千葉 正(平山中)

4日 程 **[第1日] 8月3日(火)**

- ・ 日野駅前出発 8:30 (バスにて)
- ・ 大成荘着 11:00
- ・ 開講式 11:15
- ・ 各部会の研究 13:00～17:00
- ・ 交流会 19:00～20:00
- ・ 就寝 22:00

[第2日] 8月4日(水)

- ・ 起床 7:00
- ・ 各部ごとの研究 8:45～11:00
- ・ 全体会・各部経過報告 11:00～12:00



各部経過報告の様子

- ・ 閉講式 13:00
- ・ 大成荘出発 13:30
- ・ 日野駅前到着解散 16:15



5 「ひのっ子教育21研究員会 研究集会」をふりかえって

今年で7回目となる研究集会が、1泊2日の日程で、空気の澄んだ高原の中にある「大成荘」で実施されました。宿泊を伴う研修が少なくなるなかで、ひのっ子教育21研究員会の宿泊研修は、今回も、全体として大きな成果を上げることができました。この研修で得られたものは知識のみならず、考え方、連帯感など様々なものにおよび、その価値、意義は計り知れないものがあります。

特に、日頃あまり交流することができない、幼稚園、小学校、中学校の異なる校種の先生が集まり、情報交換ができたということはお互いの理解を深めるのに大変よい機会であったと思います。

2日目に行われた全体会での各部経過報告では、様々な視点から研究発表が行われ、校種は違っても、また、テーマが違っても今後の方向性、考え方には共通した部分があることを感じました。

幼稚園部会の発表のなかに「知的な姿とは、自分で考え判断し、行動する姿である」とありました。この文言には小学校、中学校における「生きる力」と重なる部分があると考えられます。幼稚園部会の先生が、中学校部会の様子を見にきていた時に研究の内容について言った「ほとんど同じですね」ということばがとても印象的でした。

プレゼンソフトを駆使した小学校算数部会の発表、前夜遅くまで発表原稿をまとめていた小学校国語部会と中学校部会、どの部会にも日野市の抱える教育課題に対し正面から挑んでいこうとする真摯な姿がみられました。

日野市の子どもたちの健やかな成長を願う研究員の熱き思いを強く感じた2日間でした。



大成荘玄関前にて

夏季休業中の市教委主催の研修

今年は、連日の記録破りの猛暑や台風の影響下での市教委主催の研修会（教職員対象）でしたが、多くの参加を得て充実した会を催しました。参加の状況は下記のとおりです。

1 教科専門研修全体会（7月21日）

会場：日野市民会館大ホール

申込者	出席者	申し込みに対する 出席率
566	483	85、3%

2 教科専門研修会・教科別（7月22・23日）

会場：日野第一小学校・仲田小学校
三沢中学校・大坂上中学校

申込者	出席者	申し込みに対する 出席率
554	472	85、1%

3 特別支援教育・教育相談研修会 （8月9日・18日）

会場：教育センター

申込者	出席者	申込に対する 出席率
延285	246	86、3%

4 幼児教育研修会（7月21日）

会場：日野第五幼稚園

申込者	出席者	申込に対する 出席率
延82	63	76、8%

5 学習指導法研修会（8月16日）

会場：教育センター

申込者	出席者	申込に対する 出席率
54	38	70、3%

6 教育課題研修会（7月26・27日 8月23・24日）

会場：教育センター

申込者	出席者	申込に対する 出席率
延113	84	74、3%

7 情報教育研修会（7月28・29・30日 8月2・3・9・10・11・12日）

会場：日野第四小学校・日野第二中学校

申込者	出席者	申込に対する 出席率
延305	260	85、2%

夏季休業中

〔研修1～7の累計〕

申込者	参加者	申込に対しての 出席率
延1959	1646	84、0%

＝ 幼児教育研修会に参加して＝

第五幼稚園 富尾 真子

幼稚園の子どもたちは生活の中で耳慣れた曲を聴くとそれを口ずさんだり、自然と体を動かしたりして、とても楽しそうにしています。

しかし、音楽に興味がわからず、感じたことを表現することに躊躇する子もいて、自分を心から表現できる音楽の楽しさを教えていく大切さを痛感します。そのためには、「音が苦」ではなく、幼児期から小学校との連携を考えた指導のあり方を小学校の指導内容を紹介していただきながら、楽しく学びました。

I 部<リトミック、わらべうたを使って>

○低学年ではリズム楽器を多く使っている。特にリズムに乗ることが大事。

- ・リズム打ち遊びを体を使って→手拍子、2・3拍子。その中で強弱をつける。“くまさんくまさん”等に合わせて体を動かす。

II 部<歌や楽器の活動>

○楽器の演奏について、いろいろな楽器に触れながら行った。

- ・“ウンパッパ”→3拍子の他“ミッキーマウスマーチ”“太陽のサンバ”等。

※ 楽器には、金物・木物・皮物の種類があり、それぞれを組み合わせるとバラエティ豊かになる。

III 部<和太鼓パフォーマンス>

和太鼓を全員が交代で叩き、思いっきり自分を表現した。



＝ パソコン研修に参加して＝

仲田小学校 伊藤 好子

できることなら、パソコンと縁のないまま過ごしたいと思っていました。

しかし、時代の流れというものでパソコンを使わずに仕事を処理するのは難しい場合も出てきてしまい、今回の研修に参加させていただきました。パソコンは難しくとっつきにくい物と敬遠していましたが、なんとなく親しくなるかもしれないな、というのが率直な感想です。

講師の方の説明を聞いていますと、これならできるとちょっと自信もつきました。例えば、文章の中に図形を入れるのは難しく、文字入力だけで十分と思っていましたが、いざやってみますと、文字の中央に入れたり、文字の裏側に入れたり、図形を自由自在に入れられるので嬉しくなりました。

また、差込印刷という大変便利な方法があることも初めて知り、今後もっと勉強して仕事の能率化に繋がればと思います。操作がわかるまでは複雑に考えすぎて、敬遠しがちなパソコンでしたが、便利さがわかってきて楽しくなってきました。

まだまだパソコンの前に座りますと思うような操作ができません。しかし、今回学んだ内容を練習し、来年度は新たな課題をもって受講したい

と思

います。



最近の一般教育相談の状況

教育相談室では、新しい職員も徐々になれてきました。相談件数が、理由は明確ではありませんが例年ほどではないように感じておりました。そのため、6月下旬に相談室の場所や相談内容等を再確認するために「教育相談のごあんない」としてリーフレットを作成し、市内の公立幼稚園、小学校、中学校の幼児・児童・生徒と教員全員に配布しました。その結果理解が進み急に相談が増えてきて、忙しい時間を過ごしております。

「子どもこころの電話相談」や「電話相談」も掛かってくる件数が増えています。

新しくインテークしているケースについては、不登校気味やいじめなどがあります。生活習慣の習癖(チック等)に関すること等の相談もありました。「子どもこころの電話相談」では深刻なケースもあって、来所をすすめ、現在、解決に向け支え続けているケースもありました。

一つ一つのケースをどう解決すれば子どもが心身共にすくすくと健康に育っていくのかスタッフ一同、力を結集しています。

スーパーバイザーによるケースカンファレンスもその一つで、専門性の高い先生方より日頃から指導・助言をいただき、より簡潔で的確な対応を目指しております。その結果、教育相談のニーズが高まり6時間の勤務時間に六つのケースを相談するという事にもなっています。ひとりひとりを幸せにという観点から、「少ない時間をできるだけ多くの来談者のために」相談にのろうとしているスタッフです。予約時間等思うようにならないことがあるかも知れませんがよろしくご理解の程お願いいたします。

勿論、担任とも連携しながら相談をすすめ、相談内容や個人のプライバシー、個人情報 はけっして漏らすことはありません。また、保護者や相談者とのインフォームドコンセントを大切にしながら相談をすすめてまいります。不審に感じ、おかしいなと思ったことは、どしどしスタッフに言って下さい。改善に向けできる限りの努力をさせていただきます。

私ども一般教育相談室も市内の教員の方々を対象にした夏期研修会を実施させていただきました。教育相談のセッションでは、子どもの気持ちを理解するための方法を体験していただきました。ほめて貰った印象的な言葉や、逆にほめて貰ったことで気分が滅入ってしまったというような言葉などを体験した研修でした。ほめると言うことは本当に難しいことですね。結論的には相手の気持ちに共感してほめることの大切さを学びました。また、特別支援教育のセッションでは特別支援の必要な児童・生徒への対応ということで、ADHD、アスペルガー症候群、LD児等の特性や接し方等を研修していただきました。周囲の影響や育て方の問題ではない本来持っている器質的な特性の一部であるとの話があり、日常生活の中で一つ一つ確実に学んでいくことの重要性を研修しました。双方のセッションとも有意義な研修となったこととスタッフ一同期待をしております。

夏休みの中盤から後半にかけて、アテネオリンピックが開催されました。日本のメダルの獲得は想像以上のものでした。晴れやかに表彰台でメダルを受け取る姿は逞しく、りりしい姿に映りました。しかし、その陰で負けた人がおり、その人を支えてくれたスタッフがいたことを感謝とともに語っている金メダリストの言葉には胸を打つものがありました。そのような支えがあって晴れやかな場に立っていることを常に意識している人は本当に立派な人と思いました。私たちもひとりひとりの子どもを支えているスタッフとして将来に大きな花を咲かせてくれる姿を想像しながら教育相談業務を遂行しています。「ひとりではない、一緒に問題解決を手伝ってくれる人は必ずいる」、と信じて一般教育相談をご活

用下さい。

学校生活相談の活動

一不登校の児童生徒と適応指導教室「わかば教室」一

学校生活相談係は、主に心理的要因によって不登校や登校をしぶり、「適応指導教室」に通ってくる児童生徒への指導・支援並びに各学校が抱える不登校問題の状況把握・情報提供を行っています。

創刊号の「教育センターだより」では、「適応指導教室」に通ってくる児童生徒への指導・支援を主に説明しましたが、今回は各学校が抱える不登校問題の状況把握と情報提供に関わる業務から、具体的な説明をします。

（１）日野市の平成１５年度「長期欠席児童生徒に関するまとめ」から

① 不登校による３０日以上欠席した人数（文科省の学校基本調査より）

- ・ １５年度 小学校 ４２名（全児童在籍数の割合では１９４名に１名）
中学校 ７５名（全生徒在籍数の割合では４７名に１名）

② 登校しぶりが、多く発生した月は

- ・ 小学校は、９月で１１名、中学校も９月で１２名でした。

日頃気になる児童生徒には、夏休み中もたびたび電話、ハガキ、またはメールで連絡を取ったり、家庭訪問をしたり、学校・担任・保護者・そして友人などからの継続的な働きかけが大切だと思われます。

③ 登校しぶりが、解決・改善された月は

- ・ 小学校では、４月で１１名、中学校も４月で１１名でした。

春休み中、声かけなどの登校刺激が大切であると同時に、新年度の学級編成や教員配置の工夫など、きめ細かい配慮の結果だと思えます。

④ ３０日以上欠席した児童生徒で、最も多かった欠席理由は

- ・ 小学校は家庭内の問題・親子の関係が１５名、中学校では情緒不安定が２０名でした。

家庭の問題が背景にある不登校には、これまで見えなかった部分（虐待）なども表面化してくると思われます。中学生は、生徒個人の心の問題が多かったことと小学生には少ない非行や学業不振からの登校しぶりもありました。

（２）学校不適応児童生徒の状況把握と早期対応に向けて

① 毎月小・中学校で５日以上欠席した児童生徒の調査を行い、欠席状況を把握・考察

して、適切な対応と早期解決に努めています。

② 児童生徒の不登校及び健全育成に関する実態把握と学校の取り組みを知るために、毎

学期１回（年３回）、小・中学校全校（２７校）の学校訪問を実施しています。

学校の様子を聴き、不登校児童生徒への素早い対応と早期解決に役立てるとともに健全育成の推進にも効果を果たしています。

（３）その他

文部科学省の「不登校問題に関する調査研究協力者会議」の最終報告によると、基本的な考えとして５点挙げられています。その第一に、不登校の解決の目標を子どもたちの将来的な社会的自立に向けて支援することであるとしています。

これからの不登校の問題は「心の問題」のみならず、「進路の問題」としてとらえ、学習支援や情報提供を積極的に行いながら、個々の要因に応じて適切な対応策がまず

ます求められてきました。